

本屋さんのダイアナ

柚木麻子

あらすじ

『16歳になったら絶対に名前を変える』

主人公の矢島大穴（ダイアナ）は自分の名前が大嫌い。

あるときダイアナは小学3年生のクラス替えである女の子と出会う。
名前は神崎彩子。

2人はお互い自分にないところに憧れ、親友になる。

しかし、あることがきっかけでけんかをしてしまう。

そして2人とも16歳になり、ダイアナは名前を変えて本屋さんに務めたいと努力するが、彩子はおしとやかなのがウソだったように怪しいサークルに入ってしまう…。

始めは小学3年生の話ですが、16歳の2人の話になり、真逆な2人の2つの生き方を読める話です。

現実味があって本当にありそうな話なので本に引き込まれ、とても面白いです。

2人はずっとすれ違っているとおもっていたけどやっぱりどこかで繋がっているんだな、と思いました。

色々、心に響く台詞などもあるので感動する場面もあります。

是非みなさんにも読んでほしいです。